

平成24年度土砂災害防止に関する絵画・作文  
作文（小学生）の部 国土交通事務次官賞

宮崎県 小林市立小林小学校 6年 小松 彩菜

「土砂災害防止について」

二〇一二年七月、北九州で豪雨による土砂災害が起こった。たくさんの死者や行方不明者が出た。いつもは、地球に優しい大切な自然だが、時には、たくさんの命をうばってしまう、人間の敵になることもある。

しかし、土砂災害防止のために、もっとしっかりとした対策をしていれば、こんなにも大きな被害は出なかったはずだ。土砂災害防止のためには、次のようなことができる。

まず、木をたくさん植えることが大切だと思う。また、木を伐採し過ぎないことも大切だ。なぜなら、木の根が岩や土にからみついて、岩で土が固定されているため、大雨が降っても簡単には土砂災害が起きにくくなるからだ。他にも、木は空気中の二酸化炭素を取り入れて、酸素を出しているのでエコにもつながる。

次に、砂防ダムを造れば良いと思う。砂防ダムは土砂災害を受け止めて、家やまちを守ってくれる。なので、もし土砂災害が起こっても、家やまちへの直接の被害が少なくなる。

三つ目に、ひなん所も、砂防施設として考えることができると思う。現状において、ひなん所として指定されているのは、小中学校の体育館や公民館が多いが、これらはひなん所として不便な場合が多い。たとえば、冷暖房施設も十分ではなく、また、多数の家族がひなんした場合、プライバシーは保ち難く、さらには、災害時要援護者の生活には非常に不便なのが現状である。数時間でひなんが解除されるのならばがまんもできるが、数日、数週間のひなんとなると、問題が出てくる。ひなん所は土砂災害ばかりではなく、地震後や火山噴火の際のひなんにも利用されるものである。住民が危険を感じたときにはすぐにひなんできるような、安全なひなん所を整備することも土砂災害防止になると考える。

四つ目に、情報を上手に入手して、それを活用することが大切になってくる。もしニュースなどで災害の様子がわかり、危険だと感じたら、すぐにひなんできるようにする。また、ひなん所などでも情報を取り入れることができるように、電池で聞けるラジオを持っていると良い。

五つ目は、交通のことである。雨で、地面がぬかるんでいる所には近づかないようにする。そして、土砂災害が起きやすい所の近くの道路は、早めに通行止めにするべきだと思う。

何より大切なことは、みんなで力を合わせて、協力することだ。そうすれば、不可能なことも可能になると思う。

私は、この作文を書くために土砂災害について調べてみて、学んだことがある。それは、自然災害の恐ろしさと命の尊さだ。何の罪もない人々の命をうばってしまう自然はいじわるだと思う。でも、一人も被害者がでないように、ふだんから防災意識を高めておきたい。自分の地域で土砂災害は起こらないだろう、と考えるのではなくて、自分の地域でも土砂災害が起こるかもしれない、と考えるようにしたい。今まで起きた様々な土砂災害で亡くなってしまった人たちの分まで、せいいっぱい生きていこうと思う。